

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア I・教授
氏名 Name	岸田文隆
専門分野 Academic Field	朝鮮語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の研究
----------------------------------------	---------------------

江戸期日朝間に往復した朝鮮語ハングル書簡は、従来長正統氏によって紹介された 8 通のみが学界に知られていたが、2009 年に対馬宗家文庫の一紙物の目録が上梓されるにおよび、90 通余りの新たな書簡類の存在が明らかとなった。これらの大半は、1811 年の通信使易地行聘の交渉において、朝鮮側の倭学訳官らが小田幾五郎等の日本側の朝鮮語通詞に送った書簡類で、外交の舞台裏を如実に伝えるとともに、当時日朝間で如何なることばがやりとりされていたかを具体的に伝える好個の言語資料である。これら書簡類は、日朝関係史を研究するための新資料としてのみならず、近世朝鮮語の新たな資料として、また、江戸期対馬の朝鮮語学の研究資料として、極めて重要である。

本年度は、昨年度にひきつづきこれらハングル書簡類の解読をすすめ、昨年度新たに発見された一紙物追録所収のものなども網羅し、すべてのハングル書簡類につき、講読・資料批判をおこなった。2014 年 8 月には大阪大学箕面キャンパスにおいて第 3 回対馬宗家文書ハングル書簡講読検討会を開催し、本人が作成した解読案につき、科研メンバー全員で討議し、その妥当性について議論・検討した。また、対馬歴史民俗資料館が主管する朝鮮書簡調査事業に参画し、4 月および 10 月に対馬歴史民俗資料館で、11 月に九州大学で、議論・検討した。これらの検討の結果、ほとんどの書簡類の年代比定を終えることができた。

本年度に成した研究成果の一端は、論文、岸田文隆「対馬宗家文書朝鮮語ハングル書簡類の解読作業について」『国語史研究』 18, 2014((韓国)国語史学会)に発表した。また、本年 3 月に対馬歴史民俗資料館より刊行される報告書にも、その間の研究成果が収められる予定である。